

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 自然環境の工夫／学校法人白石学園辻が丘幼稚園

子どもたちにとって、身近な自然はどのような環境ですか？  
園では、どのような生き物や植物に触れ、遊びや生活が豊かになっていますか？  
園の自然環境を活かし、より豊かな環境になるように工夫している事例を紹介いたします。



#### ● 豊かな自然体験のために＜園庭の環境＞／3～5歳児



#### ✦ 体験を豊かにする環境の工夫

##### 1. ミニ田んぼ

###### ● 環境構成における保育者の意図性

日本人のルーツである稲作文化を肌で感じることや、稲を育てることの大変さや大切さを身近に感じ収穫の喜びを味わうことができるように環境を作った。



###### ● 環境によって発生する自然現象・遊び

- 稲・レンゲソウ

#### ✦ 自然体験を豊かにする園庭の環境

##### 2. ビオトープ（メダカの池）

###### ● 環境構成における保育者の意図性

生き物（メダカ）に直接触れながら、命の大切さや命の連続性を肌で感じることができるような環境を作った。また、色や形から発見しやすいヒメダカを飼育している。

###### ● 環境によって発生する自然現象・遊び

- ヒメダカの卵・稚魚・ヤゴ・カワニナ・メダカすくい・餌やり

- オタマジャクシ（カエル）・オケラ
- 泥んこ遊び・かくれんぼ

● 環境の工夫

- 観察ケースで種もみから芽だしをする

飼育ケースの中に種もみと水を入れ、「下にお米が沈んでいる」など気付いたことを言い、毎日芽が出る様子を良く観ていた。数日後、水の中の泡を発見し、



「あれっ、泡がある」「何で泡があるのかな？」と、疑問をもつ。「うわっ、臭い」と異変を感じる。子どもたちはその都度、考え合ったり調べたりする。そして、「泡は、お米が息をしているんだ」「水を換えると匂いが取れるよ」と情報を共有した。

- ペットボトルで苗を育てる

身近に観察できる場所で、一人一人ペットボトルに植えた稲を育てる。9月には「お米があるよ」「あっ、本当だ。緑色だ」「お米になるのかな?」「小さいんだね」と、穂の変化に気付き、米がどのようにできるのか探求が深まる。



3.実のなる木 ・ 4.プランター ・ 5.菜園 ・ 6.昆虫館

● 環境構成における保育者の意図性

それぞれの季節を感じることができるようにする。実を収穫できる時期や形状が違うものを植栽・栽培した。遊びを楽しむ草花の他、昆虫の食草も意図して植える。野菜など栽培物の生長に気付き、命あるものを大切にしたい思いを体験できるようにする。

● 環境によって発生する自然現象・遊び

- アゲハチョウの幼虫（キンカンなどの柑橘類）
- クマゼミ・アブラゼミ（せんだん）
- 季節の果物や野菜を味わう。
- 色水あそび（ペチュニア）（オシロイバナ）（アサガオ）
- 草花あそび・オナモミ・ツマグロヒョウモンの幼虫（蝶）
- ダンゴムシ・バッタ・ミミズ・ナメクジ
- トカゲ・ヤスデ・スズメガ
- カブトムシ・クワガタムシ（昆虫館）